



吉井 淳二 氏

吉井淳二氏は明治37年に末吉町深川で生まれた現代画家。東京美術学校（現・東京藝術大学）に入学し二科展などに入選する。昭和40年には『水汲み』で日本芸術院賞を受賞。昭和51年に末吉町名誉町民となり、その後二科会理事長就任や文化勲章を授与されました。

吉井氏の作品は自然や風景をテーマにし、特に光と影の表現にこだわりを持っていました。写實的そして立体的な陰影の使い方は独特で、作品は国内外で高く評価され、多くの人々に親しまれています。満100歳で亡くなるまで描き続けた吉井氏は日本洋画界の一時代を築きました。



一般部門 吉井淳二大賞
宮崎市 みやぎ ひろのり
宮城 博範 さん

地方のまちの展覧会ですが、超一流画家の遠藤彰子先生が審査員をされることに驚き、これまで5回ほど出品してきました。遠藤先生に作品を見ていただき、その中で最高賞の吉井淳二大賞を受賞することができてとても嬉しいです。



入賞作品1,326点展示



全国的にも珍しい
展覧会

2月15日から3月2日にかけて末吉総合体育館で第42回吉井淳二記念大賞展が開催されました。

吉井淳二記念大賞展とは、芸術文化の振興を図るため、文化勲章受章者であり日本芸術院会員であった故吉井淳二氏の功績を讃え、あわせて新たな作家の出現を促すために曾於市が「絵のまちづくり」運動の一環として毎年開催している展覧会です。

審査会は1月23日・24日に実施。今回から審査員となった絹合幸二先生は都合のため欠席され、武蔵野美術大学油絵学科名誉教授の遠藤彰子先生のみで実施されました。応募点数は一般部門157点・小作品部門120点・招待作家部門13点・高校生部門124点・ハートフル部門20点・ジュニア部門2157点・弥五郎どん部門173点の合計2764点。弥五郎どん部門は市制20周年にあわせた特別企画で今回限りの部門でした。

2月15日に表彰式・テープカットが行われ3月2日までの観覧がスタート。幼児から一般まで幅広い年齢の方の作品が並ぶのは全国的にも珍しい展覧会です。会場には多様な表現の入賞作品1326点が展示され、来場者は興味深く観覧していました。吉井淳二記念大賞展は来年も開催予定です。次回もぜひ出品や観覧にお越しください。